

UVインクジェットラベルプリンティングシステム

Truepress Jet

L350UV+LM



User Report : 大阪シーリング印刷株式会社

1日平均10~15点のジョブに対応し、 効率化と高付加価値を実現

大阪シーリング印刷株式会社は現在、小ロットのラベルニーズに対応する目的でデジタル印刷技術による生産体制の構築を推進。インクジェット(IJ)方式と電子写真(EP)方式のデジタル印刷機を設備している。特にUVIJ方式では、SCREENグラフィックソリューションズ(GA)製「Truepress Jet L350UV+LM」を福岡工場に2台導入。高速稼働による生産効率化やローマイグレーションインクの対応などを高く評価する。デジタル印刷技術に基づいた生産体制の強化と今後の活用方法などについて、ラベルプリンティングカンパニーの松原一裕ゼネラルマネージャーにインタビューした。



ラベルプリンティングカンパニー
ゼネラルマネージャー
松原 一裕氏

貴社は長年にわたり、ラベルの 生産体制に関して効率化を推進 されていますね

当社では主力の凸版輪転機を中心に印刷機を多数設備し、各工程へ専任者を配置することで生産性を高める体制を整備しています。また、凸版輪転機のジョブ領域に適さない小ロットのラベルは、協力工場に外注することもあります。しかし近年は、外注先が後継者不在によって廃業するケースが生じており、加えて当社の営業担当者から「品質保証の観点に基づき社内で製造を」との声も挙がるなど、外注に依存しない生産体制の強化が重要と認識しています。

小ロットのニーズに関して、近年は5,000枚以下の受注件数が多くなっており、当社が凸版輪転機の効率化を推進しているとはいえ、限界もあります。ただし

当社では、そのような小ロットの仕事こそ最も大切と考えており、ニーズ対応を図るべく早期からデジタル印刷技術の活用に着手。現在は、生産機として稼働しています。結果的に、小ロットのラベルに関する内製化の比率が高まりました。

小ロット対応にはデジタル印刷が 適する理由として、製版が 不要といった点がありますが

もちろんそれも理由の一つですが、作業効率が全体的に向上した点で大きなメリットが得られたと認識しています。凸版輪転機のようなコンベンショナル機はインキの取り扱いに時間とコストがかかります。特色の色合わせやインキを練る作業、印刷後の洗浄など…。デジタル印刷機はこれらの工程を必要としないため、小ロットのラベル製造で効率化を図

ることが可能となります。

またデジタル印刷は、校正刷りからそのまま本刷りへ移行できる長所があります。コンベンショナル機では、版なしのデジタル機で出力した校正刷りと色合いが異なる可能性があるため、後で本機校正が求められるケースも。もちろん当社ではそのような要望に応じていますが、作業の時間と製版などのコストが発生します。これに対してデジタル印刷は、ラベルの1枚目から本刷りができるのです。

現在、設備しているデジタル印刷機は

ラベル向けとして、水性IJ方式の機種を多数保有しています。さらに2018年夏、生産体制の強化を目的に、UVIJ方式としてSCREEN GA製のTruepress Jet L350UV+LMを福岡工場に導入しまし

た。1年間のテスト期間を経て優れた効果が得られたことを受け、翌19年夏、生産機として本格的に稼働。それに伴い、バックアップ機として2台目も設置しました。このほか、EP方式のハイエンド機を設備していますが、あくまでも軟包装向けです。

UVIJ方式でSCREEN GA製の機種を選んだ理由を

それまでラベル向けに活用していた水性IJ方式の機種は、色の再現性はよいのですが、印刷スピードがもう少し欲しかったといえます。そこで高速稼働が可能なUVIJ方式を導入することにしましたが、L350UV+LMは、白インクなしで毎分60メートル、白インクありでは同30メートルでの印刷が可能となっており、十分に満足できるスピードと感じました。実際に導入した現在も、同スピードで稼働させており、1日平均10~15点ほどのジョブをこなします。

また、オペレーターにとっては扱いやすい機種といえます。特にIJヘッドのメンテナンスが容易。またインクの経時変化が少なく、色ブレが発生しないといった特長があります。加えて、低浸透・低臭のローマイグレーションインク対応となっており、窒素パーシ機構を搭載していることから、食品ラベルを数多く製造する当社にとって最適と判断しました。

L350UV+LMの活用状況は

当機種はCMYKのプロセス4色に白と中間色のオレンジといった6色対応のため、幅広い色域を再現できています。当社では全354色による独自のカラーチャート『OSPカラー』を構築し、このうち食品ラベルで採用頻度の高い36色を『OSPセレクトカラー』として展開していますが、

これらの再現性に優れていると感じました。直近では、銀ツヤPETにフルカラーと白インクを重ねて印刷したPOPラベルがブランドオーナーに採用された実績があります。デザインにグラデーションが多く、凸版輪転機では厳しい印刷品質が要求される仕事と判断したため、当機種で対応しました。

現在、男性3人と女性3人の計6人がローテーションで2台を担当しています。女性オペレーターは産休・育休期間からの復帰後に当機種を任せましたが、すぐに扱えるようになりました。また50代の男性オペレーターもいますが「スキルレスで扱いやすい」と話していました。平均して2週間程度の経験で一通りの印刷ができます。ただし“使いこなす”のは別の話。測色して得られたデータをもとに色補正を行うための調整で独自のノウハウが必要となるため、当社ではそのノウハウ蓄積に力を注いでいます。なお抜きなどの加工に関しては、金型だけでなく、レーザーダイカットシステムも活用。印刷から後加工までデジタル対応に取り組んでいます。

デジタル印刷技術の取り組みに関して、今後の展望を

生産機として効果的な活用を模索するべく、継続してノウハウの蓄積とオペレーターの育成に努めたいと思います。デジタル印刷技術は取り扱う人の熟練度に依存することなく印刷できますが、肝心のデジタルデータに関しては加工や調整、補正などにスキルとセンスが求められます。



「Truepress Jet L350UV+LM」を2台設備。生産機として稼働している。

それが蓄積され、社内で共有されることにより、これまで回避せざるを得なかった仕事もこなすことができるようになると考えています。具体的には、可変情報にデザイン性やフルカラー化を付加したラベル製造などが挙げられるでしょう。

デジタル印刷技術はラベル製造にとって単なる小ロットのニーズ対応だけでなく、生産の効率化による利益率の向上、さらにはラベルの新需要開拓につながるチャンスの可能性があることを認識しています。



大阪シーリング印刷株式会社

住所 大阪府大阪市天王寺区小橋町1-8
代表者 代表取締役社長 松口 正
創業 1927 (昭和2) 年
従業員数 3,414名 (2021年1月現在)
<https://www.osp.co.jp/>

出典：「ラベル新聞2021年2月1日号」

